

# テンプレート研究会 ニュースレター

# Vol.02

2020年

## 理事通信

### 薬剤耐性(AMR)対策アクションプランとは？

専務理事 高山史年

会員の先生方もご存知の通り近年、薬剤耐性問題は国際的にも大きな課題となっています。表題の薬剤耐性(AMR)対策アクションプランとは日本が、WHOの「薬剤耐性に関する国際行動計画」を踏まえ、取り組むべき対策をまとめたもので、計画期間として2016～2020年までに下記の6つの目標を掲げています。「①普及啓発・教育 薬剤耐性に関する知識や理解を深め、専門職等への教育・研修を推進②動向調査・監視 薬剤耐性及び抗微生物剤の使用量を継続的に監視し、薬剤耐性の変化や拡大の予兆を適確に把握③感染予防・管理 適切な感染予防・管理の実践により、薬剤耐性微生物の拡大を阻止④抗微生物剤の適正使用 医療、畜水産等の分野における抗微生物剤の適正な使用を推進⑤研究開発・創薬 薬剤耐性の研究や、薬剤耐性微生物に対する予防・診断・治療手段を確保するための研究開発を推進⑥国際協力 国際的視野で多分野と協働し、薬剤耐性対策を推進」です。歯科医師もこのプランだけでなくポリファーマシーなどの薬の知識がいままで以上に必要になるでしょう。ではポリファーマシーとは何かと言えばご存知の先生も多いと思いますが高齢者の薬物副作用(有害事象)増加の原因として多剤服用の中でも害をなすものを特にポリファーマシーと呼びます。ポリファーマシーは、単に服用する薬の数が多いことではなく、副作用のリスク増加、服薬量や期間の間違え等の問題につながる状態のことを指します。また何剤からポリファーマシーとするかについて厳密な定義は今のところありません。しかし薬による副作用は薬の数にほぼ比例して増加し、6種類以上が特に薬物有害事象の発生増加に関連したというデータがあることは知られています。このためポリファーマシー対策で「高齢者の医薬品適正使用の指針」が平成30年5月29日厚生労働省から出たのです。今後の高齢者社会での服薬で重要な指針となるのでぜひ一読をお勧めします。

## ～2020年総会報告～

2020年3月14日に開催予定の総会はコロナウィルスの影響によりLINEでのグループビデオ通話で行いました。急遽の開催だったためすべての会員に案内できておりず大変申し訳ありません。また、4月11日に開催予定だった東京でのフォローアップセミナーも延期となっております。日程が決まりましたらあらためてお知らせします。当日は11名が参加し、坂下好一理事が議長に選出され第1号～第3号議案まで満場一致で可決されました。なお、今回就任されて理事・顧問は下記の通りになります。今後も全国の先生が参加されやすいようにLINEなどのビデオミーティングの有効活用を検討していきます。

### ・理事

理事長	前原 潔
専務理事	田賀 仁
専務理事	高山 史年
理事	有川 公仁
理事	岩水 亨
理事	牛久保 順一
理事	坂下 好一
理事	武内 久幸
理事	馬場 正英
理事	原園 聖一
理事	松井 利行
理事	松田 佳夫
理事	吉川 節子

### ・顧問

顧問	伊藤 春生
顧問	大久保 潔重
顧問	黒田 悦夫
顧問	高田 富三男
顧問	寺下 和平
顧問	橋本 賢二
顧問	南 直臣
顧問	申 元漢
顧問	李 基喆
顧問	David L Burns

### ・総会時のビデオ会議の様子

